

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
北海道芸術デザイン専門学校		昭和51年4月1日		根上 和也		〒 001-0024 (住所) 札幌市北区北24条西8丁目1-12 (電話) 011-756-0777			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人美専学園		昭和62年12月4日		増田 涼平		〒 001-0024 (住所) 札幌市北区北24条西8丁目1-12 (電話) 011-756-0777			
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
文化・教養	専門課程	産業デザイン学科 (イラストレーション専攻)		平成 7(1995)年度	-	平成26(2014)年度			
学科の目的	産業デザイン学科(イラストレーション専攻)の各分野に関するプロ養成に必要な、「基礎から実践」までを教育することを目的とし、次の事項に重点的に取り組む。 ・各分野のプロになるための技術や知識を学ばせ就職させる。 ・いかに学生・保護者・就職先企業等のニーズに応えるか、各分野における諸課題を主体的・創造的に研修し、実務的な職業教育を施す								
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	【資格・検定】ビジネス能力検定・ジョブパス ADEC色彩士検定 3級 Illustratorクリエイター能力認定試験 Photoshopクリエイター能力認定試験 【学修成果】ターナーアワード2023 専門学校優秀賞 学校賞 毎日DASイラスト部門 入選 第14回道展U21サクラクレパス賞								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	2,400 単位時間 — 単位	300 単位時間 — 単位	2,100 単位時間 — 単位	0 単位時間 — 単位	0 単位時間 — 単位	0 単位時間 — 単位	
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)					
320人	183人	0人		0%					
就職等の状況	■卒業生数(C)		62	人					
	■就職希望者数(D)		47	人					
	■就職者数(E)		46	人					
	■地元就職者数(F)		42	人					
	■就職率(E/D)		98	%					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		91	%					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		74	%					
	■進学者数		0	人					
	■その他								
	・関連分野へのアルバイト:6名・臨時的な仕事:10名								
(令和 5年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)									
■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) 広告・印刷・出版・web・ゲーム・アニメーション・他									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載			0					
	評価団体:	受審年月:	評価結果を掲載したホームページURL						
当該学科のホームページURL	https://bisen-g.ac.jp/speciality/illustration/								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)								
	総授業時数		2,400 単位時間						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間							
うち企業等と連携した演習の授業時数		300 単位時間							
うち必修授業時数		2,400 単位時間							
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間							
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		300 単位時間							
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(B:単位数による算定)								
	総授業時数		— 単位						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		— 単位							
うち企業等と連携した演習の授業時数		— 単位							
うち必修授業時数		— 単位							
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		— 単位							
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		— 単位							
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		— 単位							
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		3人						
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		1人						
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人						
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		1人						
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0人						
	計		5人						
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		5人							

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本校の教育目標「各専攻における専門教育および職業教育の確立」を達成するために、指導内容や各種特別活動等を総合的に組織する一連のPDCAサイクルにおいて、教育課程編成委員会でその教育効果を検証し、企業等委員からの意見・助言を取り入れ、開設科目編成や授業内容の改善等を図っていくものとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

年2回開催される本委員会は、委嘱委員から経営者等としての視点による助言を受け、即戦力となる人材育成のために、学生がインターンシップや職場体験、現場見学等を経験できる機会を創出する等、社会人としての基礎力および実務スキル向上につながる授業内容や指導方法の改善に取り組むための、意見交換および教育効果検証の場として位置付ける。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
佐野 公康	株式会社デービス 代表取締役	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
佐藤 正人	北海道イラストレーターズクラブα 名誉会長	同上	①
堀川 敦史	(株)サイクロンゼロ 開発部マネージャー	同上	③
大内 利章	(株)自然農園 代表取締役社長	同上	③
伊藤 千織	一般社団法人 北海道デザイン協議会 会長	同上	①
薄木 健友	(株)花佳 代表取締役	同上	③
赤坂 真一郎	(株)アカサカシンイチロウアトリエ 代表取締役	同上	③
鈴木 理	(株)鈴木理アトリエー級建築士事務所 代表取締役	同上	③
根上 和也	北海道芸術デザイン専門学校 校長(委員長)	同上	—
高橋 美絵	同 教務部長・マルチメディアデザイン学科長	同上	—
飯塚 哉子	同 学務部長・建築デザイン学科長	同上	—
高畑 文一	同 産業デザイン学科長	同上	—
桂 充子	同 環境デザイン学科長	同上	—
稲葉 未紗	就職課主任	同上	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(8月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年8月29日 16:00～18:00

第2回 令和6年1月26日 15:00～17:30

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

- ・第1回教育課程編成委員会で出された意見や助言を踏まえ、改善点があれば、可能なものは後期の授業から、その他については次年度の教育課程編成に際して反映させ、第2回教育課程編成委員会で新年度教育課程案として提案している。
- ・ゲーム会社ではUIデザインが得意な学生の需要が高いとの助言から今年度のカリキュラムでUIデザインを行える授業の内容を強化した。
- ・生成AIにおけるイラスト制作については現場レベルでは実装までには至っていないが、今後の委員からの助言と動向を見ながら、カリキュラムに活かしていく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校の教育目標「各専攻における専門教育および職業教育の確立」達成のため、各専攻関連分野の企業および業界団体と連携し、実践的な職業教育の実施に必要なカリキュラムの作成、講義および研修の実施、各種教材の作成等において、緊密な協力体制を構築・維持するものとする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

- ・職業教育協定書に基づき、各専攻関連分野の企業および業界団体から、各専門分野の指導講師として人材の派遣を受ける。
- ・担当教科目の指導計画について事前に協議し、各教科目のねらいに沿って授業内容や実施方法、評価の観点等についてまとめた指導計画書（シラバス）を作成し、教務部へ提出する。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
専門技術演習Ⅱ (絵本表現演習Ⅱ)	イラストレーション業界における媒体表現の基本的な制作方向やクライアントが求めるイラストレーションやターゲット・コンセプト設定など媒体に合わせたイラストレーションを学びながら、表現方法の意識を深める。感覚的なものを如何にイラストレーションで表現するか、媒体化した時のデザイン性も含めてトータルでものを見られるように表現する。	北海道イラストレーターズクラブα
総合技術演習Ⅲ (webバナーデザイン)	Web広告における業界での実務の流れに沿い、バナー広告デザインスキルの向上を図るとともに、目的に合わせたデザインを習得させる。	株式会社ステージハンド
総合技術演習Ⅲ (キャラクターデザイン)	キャラクター制作にあたり、取材・企画立案から進め、クライアントが求めるイラストレーションやターゲット・コンセプト設定など媒体に合わせたイラストレーションを学びながら、表現方法の意識を深める。感覚的なものを如何にイラストレーションで表現するか、媒体化した時のデザイン性も含めてトータルでものを見られるように表現する。	合同会社 工房アルティスタ
クリエイティブワークⅠ	イラストレーション業界における媒体表現の基本的な制作方向やクライアントが求めるイラストレーションやターゲット・コンセプト設定など媒体に合わせたイラストレーションを学びながら、表現方法の意識を深める。感覚的なものを如何にイラストレーションで表現するか、媒体化した時のデザイン性も含めてトータルでものを見られるように表現する。	SHIMAUMA DESIGN
イラストテクニックⅠ	媒体を想定し、イラストレーションにおける写実表現を基礎から習得する。 果物、料理、機械などを「本物よりもリアルに」描く技術を学ぶ。パステル・アクリル絵具（透明・不透明）を用いて簡単なものから練習し習得する。	ART.CRAFT.SYSTEM

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

(教員の研修等の基本方針)

本校教職員研修規程に基づき、研修は、教職員が現在就いている職に係わる職務の遂行に必要な知識、技能、資質等の向上を図ることを目的とし、そのため教職員の資質に応じた研修計画を策定し、校内外で催される必要な研修を受ける機会を学園として認め、経費を負担することとする。

- ・教職員は、業務に支障のない限り、理事長の承認を受け校外の産業現場等、勤務場所を離れて研修を行うことができるものとする。
- ・各専攻関連分野の業界団体主催による各種技能研修や、ICT機器・アプリケーションソフト関連セミナー等の受講機会を確保し、最新の実務知識・技術・技能の計画的修得および向上に努める。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	マンガから学ぶストーリーの作り方 オンラインセミナー	連携企業等:	デジタルハリウッド大学
期間:	令和6年6月26日	対象:	教員、一般、学生
内容:	ストーリーはイントロから順番につくらない 他		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	「多層化する専門学校生を最新データで読み解く」	連携企業等:	株式会社 進研アド 専門学校事業部
期間:	令和5年8月1日	対象:	専門学校教務・広報
内容:	中退防止に向けた「入学前」からの学力向上		

研修名:	『学生対応に関する勉強会』	連携企業等:	LITALICOワークス
期間:	令和5年7月25日	対象:	就労移行支援に興味のある方
内容:	特色ある就労移行支援事例共有		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	クリエイターのための著作権	連携企業等:	札幌北商標法律事務所
期間:	令和6年9月～11月	対象:	内部教員、学生
内容:	知的財産権についての事例Q&A		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	令和6年度 第1回文部科学大臣認定「職業実践専門課程」に係る研修会	連携企業等:	北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会
期間:	令和6年7月22日	対象:	北海道専修学校各種学校連合会
内容:	大学における障害学生支援～合理的配慮を中心に		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

自己評価と学校関係者評価を実施することで、学校の現状と課題を的確かつ具体的に把握して学校運営の改善、強化を目指すものである。また、同時に関係する企業等との信頼関係を深めることを基本方針としている。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	理念・目的・育成人材像など学科の特性が明確になっているか 各学科の教育目標・育成人材像は業界のニーズに向けて方向づけられているか
(2)学校運営	目標等に沿った学科運営方針が明確になっているか 教育活動に関する情報公開が適切になされているか
(3)教育活動	教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が示されているか 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか 資格取得の指導体制はカリキュラムの中で体系的に位置づけられているか 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる指導体制を確保しているか
(4)学修成果	就職率の向上が図られているか 退学率の低減が図られているか
(5)学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか
(6)教育環境	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか 防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	学生募集活動は、適正に行なわれているか 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか
(8)財務	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 財務について会計監査が適正に行われているか
(9)法令等の遵守	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか
(10)社会貢献・地域貢献	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか
(11)国際交流	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

4名中3名の委員を入れ替え、新たな視点・それぞれの立ち位置から、本校が行った学校評価(自己評価)結果及び今後の改善に向けての方策等について意見をいただいた。今後も、歴史と伝統のある道内有数の専門学校として、不易と流行を踏まえながら、時代や業界が求める人材の育成のため教育課程や学生指導について改善を図り、また職業実践専門課程校としての責務を果たすべく、連携する企業との情報共有の充実や教育資源の積極的な活用に努めていく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
國松 明日香	星槎国際大学	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業関係者
松田 香織	(有)I.B.DESIGN	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業関係者
篠宮 利恵子	デザイナー	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	地域有識者
櫻井 俊二	(有)I.B.DESIGN	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	卒業生・企業関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <http://www.bisen-g.ac.jp> (北海道芸術デザイン専門学校) <https://www.iyaku.ac.jp> (北海道医薬専門学校)

公表時期: 令和6年6月14日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校の状況(課題や教育活動の取組)を広く理解してもらい、さらに企業等との信頼関係を深める。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	経営方針、学校の特色、新型コロナウイルス感染症対策
(2)各学科等の教育	カリキュラム、収容定員、学修成果、資格取得等の実績、卒業生の進路
(3)教職員	各教員の担当科目、教員の専門に関する情報
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職支援等への取組状況、実習等の取組情報
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況
(6)学生の生活支援	学生支援への取組状況
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金の取り扱い、活用できる経済的支援措置の内容等
(8)学校の財務	事業報告書、収支計算書
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	留学生の受け入れ・派遣状況
(11)その他	学則

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <http://www.bisen-g.ac.jp> (北海道芸術デザイン専門学校)

公表時期: 令和6年6月20日

授業科目等の概要

授業科目等の概要専門課程 産業デザイン学科(イラストレーション専攻)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			デザインに必要な平面構成の基礎の理解と技術練習。レイアウトの感覚を養い、デジタル処理を踏まえたデザインの基礎を学ぶ。	1前	60	2	○			○			○	
2	○			プロのイラストレーターにテクニックを学び、アクリル絵具や透明水彩絵具など基礎的な画材を把握する。画材や素材を研究し、自身の作家性を高める。典型的なイラストの制作法を理解する。	1前	60	2	○			○			○	
3	○			基本的な形態の把握と描き方を学ぶ。静物、石膏像、人物を鉛筆や木炭で描画し、確かなデッサン力を養う。	1前	60	2	○			○			○	
4	○			果物、料理、機械などを「本物よりもリアルに」描く技術を学ぶ。パステル・アクリル絵具（透明・不透明）を用いて簡単なものから練習し習得する。	1前	60	2	○			○			○	○
5	○			イラストレーションの役割やデザインの現場において、より魅力的かつ人に伝わるビジュアル制作を学習する。イラストレーターとしてのワークフローなど、イベントを想定した制作物を通してデザインとイラストレーションの関係性などを含めて取得する。	1前	60	2	○			○			○	○
6	○			DTPの基礎を身につけ、デザイン業界において即戦力となる能力の習得を目指す。パスワークを中心に、Illustratorの基礎を習得する。	1前	60	2	○			○			○	
7	○			ペンタブレットを用いて、CLIP STUDIO PAINTによるデジタルイラスト制作の基礎を学ぶ。人物描き分け・背景パースの課題を通して描画力をつける。	1前	60	2	○			○			○	
8	○			新聞、雑誌、ポスター、パンフレット等の広告媒体で使用するイラストレーションの役割を理解し、クライアントや読み手を意識した表現方法や技術を学ぶ。独りよがりではない、受け手にメッセージがしっかりと届くイラスト表現を身につける。コンペに積極的に取り組む。	1前	60	2	○			○			○	
9		○		オリジナルイラストをデジタルかアナログの2科目の中から1科目を選択し、オリジナルティーのある表現力を習得する。	1後	30	1	○			○			○	
10		○		デジタルイラストⅡ、DTP演習、デザイン演習の3科目から1科目を選択し、描画力やデザイン力、レイアウト力を習得する。	1後	30	1	○			○			○	

24		○	専門技術演習Ⅲ	デッサンⅢ、ステーションナリープランニング、UIUXデザインⅡ、マンガ制作演習、シルクスクリーン演習、進路に向けたスキルの習得や表現技法を高める。	2 前	60	2		○		○								
25	○		進級制作	1年次の集大成として、B2サイズの中型作品、5種の選択課題(デッサン、マンガ制作、キャラクターデザイン、パッケージデザイン、リアルイラスト)から1つ選択)、3種類の選択課題(2Dデジタル演習、広告デザイン、ブックデザイン)計3課題に挑戦する。	1 後	180	6		○		○								
26	○		卒業制作	イラストレーション専攻で学んだ2年間の集大成を卒業制作とする。業界のニーズに応えるテーマ・コンセプトを設定し、画材・素材・描法・作品サイズ・点数・展示案を考えて企画書にまとめ、スケジュールを意識して个性的かつ完成度の高い作品を仕上げる。	2 後	450	15		○		○								
27	○		英語	初歩的な英語の運用能力を養う。	1 前	30	1		○	○			○						
28	○		一般教養Ⅰ	美術鑑賞・就職ガイダンス等、社会人として求められる基礎教養・知識を広く学ぶ。クリエイターとして重要な色彩や知的財産権に関する講義も実施する。	1 前	30	1		○	○			○			○	○		
29	○		一般教養Ⅱ	社会人として求められる基礎教養・知識を広く学ぶ。就職活動必須ツールの制作、デザイン業界の知識や業界リサーチについて傾向と対策を学ぶ。	2 後	60	2		○	○			○			○	○		
30	○		クリエイティブワークⅡ	長期に渡る自主制作プロジェクトをデザインする。展示計画を立て、プレゼンテーションを行い、スケジュールを通して企画を実現させるノウハウを学ぶ。ポートフォリオのブラッシュアップも平行して行う。	2 前	60	2		○	○			○			○			
31	○		前期課題制作Ⅰ	夏季休業中に各種コンペに組み入り賞実績を作る。また、イラストレーション作品が使われる媒体を収集し研究することでイラスト表現の幅を広げる。	1 前	30	1		○				○			○			
32	○		前期課題制作Ⅱ	夏季休業中に各種コンペに組み入り賞実績を作る。また、イラストレーション作品が使われる媒体を収集し研究することでイラスト表現の幅を広げる。	2 前	30	1		○				○			○			
33	○		後期課題制作	冬期休業中に進級制作に備え、進級課題のラフスケッチ制作や、必要な資料を収集しまとめる。	1 後	30	1		○				○			○			
34	○		セルフプロモーション	自己PRに向けて発展させる。クリエイターに必要なセルフブランディングに取り組む。	1 後	30	1		○				○			○			
35	○		キャリアプランニングⅠ	さまざまな業界を研究しイラストが使われている仕事の流れなどを知り、デザインとの関わりを学ぶ。ビジネス能力検定ジョブパス3級取得に対応。	1 前	30	1		○	○			○			○			
36	○		キャリアプランニングⅡ	自分が目指す業界に向けたポートフォリオの制作指導。進路指導と平行して実施する。必要となる作品作りにも取り組む。	1 後	30	1		○	○			○			○			

37	○		キャリアプランニングⅢ	履歴書・エントリーシート・ポートフォリオ(作品集)等の就職活動必須ツールの準備、筆記試験対策、面接・プレゼンテーション対策など、デザイン業界の採用試験について傾向と対策を学ぶ。	2 前	30	1	○	○		○	○		
38	○		キャリアプランニングⅣ	各業界を知り、研修、訪問などを通して実社会をより深く知る事で仕事を理解し就職活動につなげる。応募企業に評価してもらうためのポートフォリオのレベルアップを図る。	2 後	30	1				○			
39	○		業界研究	業界内の職種・組織の構成・採用側が求める人物像等についてリサーチするとともに、各自が希望する業種・職種について理解を深め、就職活動を進めていく上での目標を具体化していく。インターンシップ(企業研修)の事前指導も実施。	2 後	60	2				○	○		
合計						39	科目	2400 単位 (単位時間)						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件:	学年の教科目を履修・修得し、卒業制作の審査に合格した者は、第2学年の課程の修了が認められ、卒業が認定される。卒業時必要履修授業時数2,400単位時間	1 学年の学期区分	2 期
履修方法:	必修科目については時間割に準じ、選択科目についてはガイダンス時に配布される資料やシラバスを確認し、担任へ申告後履修する	1 学期の授業期間	18 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。